

# 最強の地域の中で

これは、2月7日（金）の新入学児童保護者説明会の模様です。はじめは固い雰囲気もだんだんと和んだ雰囲気になりました。親の学びのトレーナーの皆さまには感謝申し上げます。

先日、授業参観・懇談会では、多くの保護者の皆さまにご来校いただきありがとうございました。

さて、前号では保護者の学校評価アンケート結果のみを速報としてお伝えしましたが、今号では、保護者、児童、地域の方々、学校職員それぞれの結果分析をお伝えします。今後の西南小のあり方や方向性について、回答した四者と共有していきたいと考えています。

## ○保護者アンケート結果について

学校の取組を評価する項目において、全体的に学校に対して肯定的な意識をもっている。その中で肯定率が低かったのは、「個に応じた教育」（八〇％）、「学力が身につく学習指導」（八三％）である。個別指導の更なる充実をもとめる意見もあった。とはいえ、今年度は複数の職員の欠員がある中で、不登校傾向・不登校児童は昨年度よりも減少し、学力向上も実現した。（県学力調査結果より。次号に詳細）次年度は更に厳しい人員配置となることを前提に、取組の取捨選択と質の向上が求められる。その手段の一つとして地域や保護者との協働をより進めていくことで、児童の健やかな育ちを共に追求していきたい。

## ○地域アンケート結果について

地域の方へのアンケートは、区長・民生委員を対象とした。昨年度に比べ、高評価が得られた。肯定率が九割を下回ったのは「子どもは、学校や地域で気持ちの良いあいさつができる」（八六％）だけであり、それでも昨年度の七七％から向上した。回答者からは、児童よりも保護者の地域での挨拶が課題との声もあり、今後、学校・家庭・地域の三者が一体となって改善を進めていく必要がある。改善の内容としては、三者の連携をより強くするための機会づくりをベースにしながら、お互いをより知り合えるようにしていきたい。その基地として本校内に「ミニミニルーム」を設置する予定（三月開設）である。

## ○児童アンケート結果について

「学校で楽しく生活できているか」（九六％ 昨年九四％）、「授業は楽しく、分かりやすいか」（九一％ 昨年九三％）、「自分や友達のことを大切にしたい言動ができているか」（九五％ 昨年九四％）から、大半の児童は学校生活に肯定的であることが分かる。毎月の心のアンケートや迅速なケース会議の成果と思われる。しかし、不登校・不登校へ

傾向の児童は減少したとはいえ、依然として登校渋りと見られる欠席連絡や出席状況が少なくない。そうした状況から、児童はもろろん保護者の困り感も透けて見える。それは今後の取組の充実が求められていることに他ならない。何よりも子どもが安心して生活できる居場所づくりを進めていくために、あらゆる機会を通じて児童・保護者との関係作りに努め、担任以外の相談窓口も設けていきたい。一方で、児童がより楽しく生活できる工夫についても、児童とともに考えて取り組みたい。

## ○教職員アンケート結果について

まず、学校についての項目の肯定率は昨年よりも明確に向上し、四者の中で最も高い数値となった。今年度は校内事情が特に厳しい中で取組の工夫や組織化をより心がけた事によって、不登校や学力向上に一定の成果が見られたことから、の自負もある。

一方で、子どもについての項目の評価は厳しい。昨年度よりも向上しているが、これは子どもを評価することを通して自己の指導を評価するためである。特に、「子どもは自分の考えや意見を言える」「子どもは学校のきまりやルールを守っている」「子どもは学校や地域で気持ちの良い挨拶が出来る」「はいすれも肯定率七三％で、四者の中で最も厳しい。課題克服の取組としては、児童会活動のさらなる活性化や西南パーククラブ（SPC）等の取組のような子どもたちの自主的な活動の場を作りたい。その中で、意見交換やルール遵守、挨拶の良さなどを体感させる取組を通して、西南小の子どもが元来もつ力を引き出し、伸ばしていきたい。

分析にあるように、今年度は一定の成果を上げることが出来たと思っています。しかし、それらの成果は一面的なものに過ぎないこともしっかりと自覚しているところです。西南小のポテンシャルはまだまだこんなものではないと思っています。今年度の一五〇周年記念事業では、大変多くの皆さまからご協力いただきましたし、先月末の不審者事案では保護者を含めた大勢の地域の方々が子どもたちの見守りをしてくださいました。一方で、栄養教諭による料理教室など、学校から地域に飛び出していく取組も始まっています。

惜しみなく学校に協力いただく地域、学校の取組や呼びかけをしつかりと受け止めていただく地域、そんな最強の地域の中に学校があるのが西南小の何よりの強みです。